

## 8・15 反核、反戦、平和を祈る礼拝のアピール

今年も8月15日がやってきました。靖国状況はまことに厳しいものがあります。今年は閣議決定による第1回「戦没者追悼・平和祈念の日」式典が行われることになっていますが、これは、単に過去の「戦没者の追悼」にかかわるものではなく、今後起りうる戦争のことを十分に計算に入れて考え出された政府主催の式典であることは明白です。鈴木首相による靖国参拝の公私否認また初村労相による「公人の資格で参拝する」、「玉ぐし料も100万とか1000万円なら別だが、10万、20万円程度なら公費を使ってもいいのではないか」との発言にみられるように、政府は公式参拝に向けて一歩も二歩も大きく踏み出そうとしています。緊急財政の中での軍事費の聖域化と増強、中国、韓国などからも厳しい批判をうけている教科書検定の強化による侵略という事実の改ざん、さらに自民党による憲法改悪草案の準備など、政府、与党の意図しているところが、国民の願いから遠く離れた軍国主義復活につながる危険なものであることは明らかであります。しかもこれらは箕面忠魂碑訴訟(3/24 大阪地裁)、自衛官合祀拒否訴訟(6/1 広島高裁)で何れも原告側が勝訴し、さらに玉ぐし料寄付をめぐる靖国訴訟(6/28 盛岡地裁、松山地裁)が始るなど、国や、自治体が国民の厳しい批判にさらされていることを全く無視する形で行われているのです。慰霊追悼はあくまでも個人の事柄であって、国や自治体が関与すべきではありません。

この「神を恐れず、人を人とも思わない」(ルカ 18:2)あり方をそのまま見過してよいでしょうか。われわれは歴史の曲り角ともいべき今日の状況を十分に認識し、「み国の来らんことを祈り求め、そのために政府主催の「戦没者追悼、平和祈念の日」に反対し、8月15日を中心として8月を「反核、反戦、平和を祈り求める月」として、礼拝などで諸教会が真剣に取組んでくださるよう訴えます。あわせて、靖国委員会の活動のための募金に応じて下さるようお願いします。

御教会の上に祝福が豊かにありますように。

1982年8月5日

日本バプテスト連盟  
靖国神社問題特別委員会  
委員長 植木基介

追記 ヤスクニ献金送金の場合は、同封の振替用紙をご利用下さい。